

平成22年度の学校評価

平成22年度の 重点目標	① 地域や家庭との連携を密にし、本校への信頼と期待に応えるべく「地域に愛される学校、地域になくってはならない学校」を目指す。 ② 生徒一人一人が持つ能力を最大限に引き出し、学力・体力の一層の伸長を図る。 ③ 生徒が卒業後の人生を自らの手で切り開けるように、先を見据えた進路指導、生徒指導を行う。 ④ 部活動やボランティア活動、体験学習、学校行事などを通じ情操の涵養を図り、「自信と誇り」に満ちあふれた生徒を育てる。 ⑤ 生徒一人一人を大切に保護者と情報の共有化を図ることで、家庭、学校の信頼関係をより一層深める。 ⑥ 環境美化・緑化活動を推進し、安全で安心できる学校環境を整える。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学校行事 (総務部)	P T A活動の活性化による教育活動の充実	P T A総会及びP T A行事の参加率の向上	各P T A行事への参加率は向上した。連絡封筒が家庭に渡らないことがあり連絡が徹底できなかった。携帯メールによる配信に期待したい。
	式典（儀式）の充実	儀式における更なる規律正しい態度の育成	要項作成が遅れ教員の生徒指導に影響が出た。早い計画立案が課題である。歌唱指導も計画的に行うべきであった。
	校内研修の充実	生徒の実態に即した研修計画	生徒の実態に即した研修計画をたてられず、校内研修が充実できなかった。
学習指導 (教務部)	基礎学力の充実	学習内容の精選、家庭学習の充実、授業心得の遵守	1年生では課題提出が徹底できた。また全学年において週末課題の周知が図れ、学習に対する興味・関心の掘り起こしに手応えがあった。履修状況報告書は各学年3枚提出された。今後、家庭学習の一層の充実を図っていきたい。
	成績不振者の減少	よくわかる授業、興味をもつことができる授業の実践	成績不振者の数は昨年より増加した。評価方法を検討（考査を重視）した結果が要因と思われる。教科間での評価方法の統一が必要である。また、非常勤講師への対応（授業内容・進度・生徒指導等）が必須である。
生徒指導 (生徒指導部)	遅刻者数の減少(遅刻0への挑戦)	多遅刻者・遅刻常習者に対する指導の強化 遅刻0週間の実施	遅刻者数は確実に減少したが、常習者に対する指導が徹底できなかった。
	心の健康の促進	生徒の状況把握と教育相談の充実	相談室を開放したことと、みよし市から発達心理士が派遣されたことにより、教育相談の機会と質が向上した。
	自主自立を基本とした寮生活	生徒組織を活性化させ、責任を果たす指導の徹底	定期的に寮生会議を行い意見が集約でき、寮内の生活や環境を整備することができた。来年度も継続し、寮生主体の運営を行っていきたい。
生徒会・ 部活動 (特別活動部)	部活動の更なる活性化	文化部を中心とした活動の活性化と内容の充実	活動していなかった部を廃部し、生徒のニーズに配慮した新しい部を設立する姿勢を示した。生徒を指導する部顧問の意欲と時間の確保が課題である。
	生徒会活動の充実	生徒会行事への積極的な参加と各種委員会の活動活性化	指示された事しかできない生徒に対する意欲の喚起が必用である。
	ボランティア精神の育成	ボランティア活動に対する需要の多さを周知させるため、全校生徒に対して充実した情報提供を行う。	ボランティアに対する情報提供は継続的に実施できた。実際のボランティア活動を促進させる事が課題である。
健康・ 安全指導 (保健部)	環境美化に対する意識の涵養	清掃への取組の徹底	生徒の清掃活動への取り組みは毎年向上している。教員の共通理解が十分図られていない点がありその対応を図りたい。清掃用具の不足への解決も対応したい。
	施設・設備の管理及び整備	月例点検の実施と改善	計画的に安全点検は実施できた。予算の問題から改善できなかったところがあり、来年度は、前年度改善できなかったところを重点的に報告していききたい。
	保健委員会の充実	委員会活動の活性化と充実	昼放課の保健委員による広報活動や毎週木曜日に実施してきた花壇の清掃活動の成果がしっかりと確認できた。来年度も継続していききたい。
進路指導 (進路指導部)	職業観、進路意識の育成	各学年の進路的行事を充実させる。適切な時期に適切な情報を提供する。	インターンシップは例年より多くの生徒が参加した。各行事の目的や意義を再確認し、事前・事後指導を充実させることが必要である。
	基礎学力・受験学力の育成	補習授業と模擬試験の効果的な活用と自学自習の習慣をつけさせる。	各教科と意見交換を活発化して、1人でも多く自学自習に取り組める生徒を育てることが課題である。そのために、学力の分析や適切な教材を与えることが必要である。
	諸調査・諸テストの結果のフィードバック	結果後1週間以内の処理を目指す。	学年末の模試報告について、簡潔かつ迅速な処理を心がける必用がある。資料作りに終始しないように注意する必要がある。

平成22年度の学校評価

図書・情報 (図書情報部)	図書館利用の促進	図書委員会活動の充実	多少充実したようだが、ほぼ例年通りである。
		図書館行事の充実	多少充実したようだが、ほぼ例年通りである。
	図書管理のデータベース化	バーコード(約2万冊)の貼り付け	バーコードの貼り付けが手違いもあり、約2千冊残っている。
	ホームページの更新	更新方法の具体的流れの簡便化、各分掌・学年への働きかけ	各学年・各分掌の担当者に働きかけ、HPの更新がシステム化できた。
スポーツ 科学科	スポーツ科学科志願者の確保に努める。	自校ホームページの充実と体験入学、中学校訪問、地域別説明会の充実	地域別説明会の会場を一カ所増した。また、経済状態の悪化により公立志向の高まりなどとあいまって、受験倍率が上昇した。
	部活動の充実とより一層の活性化を図る。	特別活動部と連携を図り普通科生徒への運動部参加への呼びかけと活動内容の充実	普通科生徒の部活動参加率も向上し部活動を継続する生徒が増加してきたが、まだ参加率が低い。
	スポーツ科学科生徒の進路希望を達成するため、進路指導部と連携し進路意識を育成	3年間を見通して体系化した進路意識育成システムを構築する。	大学進学希望生徒が増加する中、一般入試で進学する生徒の数が未だに少ない。今後も進路指導部と協力しながら検討する必要がある。
1年学年会	高校生活への適応…ルールを守らせる。時間を守らせる。授業の雰囲気大切にさせる。	学年集会やLTなどのあらゆる機会を捉えて、集団生活を常に意識させる。	学校生活における、授業や時間厳守などの最低限のルールについてはおおむね徹底できた。今後は状況に応じて適切な態度や対応がとれるようワンステップアップした指導を行いたい。
	基礎学力の定着…課題の提出を徹底させる。家庭学習を習慣化させる。	適正な質と量の課題を設け、家庭学習の習慣化と深い授業理解を図る。	考査に向けて学習する雰囲気を全体で作ることはおおむねできた。今後は家庭学習の習慣化に向け継続的に指導したい。
	将来への展望…3年後の進路目標を具体的に考えさせる。多くの情報から人生観を深めさせる。	体験学習や進路行事を効果的に活用し、ライフサイクルを考えさせる。	秋・冬の体験学習を通して、職業について考えさせることができた。今後も多くの情報を与えながら、生徒自らが情報を選択・実行できるように指導を継続したい。
	諸活動への積極的参加…行事や部活動などに積極的に参加させる。	十分な事前指導を行い、高いモチベーションで行事等に臨むことができるようにさせる。また部活動参加の声かけをお	部活動紹介を利用し、普通科の生徒にも積極的な部活動参加を呼びかけた結果、特に普通科男子の部活動率が上昇した。今後、各部活動と学業の両立に取り組むように指導を継続したい。
2年学年会	基本的な生活習慣の確立	遅刻、欠席をさせない。家庭での学習習慣をつけさせる。	十分な結果が得られたわけではないが、自覚の芽生えが感じられる生徒が増えつつある。継続して指導をしていきたい。
	基礎学力の充実	授業を大切にさせる。家庭での学習を充実させる。	中だるみの時期に校内の巡回等により授業を大切にさせる指導を強化した。家庭学習習慣を身に付けようとする生徒が増えつつある。
	学校諸活動への積極的な参加	あらゆる場面で、学校の中核としての学年であることを自覚させる。	学校行事等へ主体的に参加しようとする態度が見られた。
	進路目標の明確化	体験学習やLTなど、あらゆる場面をとらえて進路目標を具体化させる。	体験学習や進路LTなどを契機として、多くの生徒が自らの進路目標を明確化した。
3年学年会	進路目標の実現	総合的な学習の時間やLTの活用	総合的な学習の時間を有効に利用して、進路に対して自ら向き合う機会を確保できた。各自の進路目標の達成ができた。
	学習環境の整備	課題、STテスト、進路別補習講座、時期を踏まえた学習会の設定	課題の取り組み方、平常の学習においてやらされている感覚がある。自主的な学習の確立には、学校全体で取り組む必要がある。
	最高学年としての自覚	成績不振科目の減少(0を目指す)、学校行事や部活動等におけるリーダーシップの発揮	部活動や学校行事において、下級生と協力して最高学年の自覚がみられてきた。スポーツ科学科、普通科共に現れてきたのが進歩である。
	社会の一員としての自覚	日常的な指導と諸行事の活動後における自分自身の行動を振り返る場面の設定	学校生活全般において、日常のコミュニケーションをとる中で言葉遣いの徹底を図った。その結果、社会へ巣立っていく大人としての自覚が芽生え向上が図られた。
総合評価	改善点はあるものの、各分掌・学年ともに年度当初に掲げた目標を概ね達成することができた。学校関係者評価や保護者アンケート、評議員の意見においては、今後の三好高校の活躍や発展を期待した好意的な御意見を多数いただいた。学校スローガンとして掲げている「地域と共に進化する三好高校」を一層具現化させるために、地域ぐるみによる活動(交通安全「スクラム作戦」、「530運動」、みよし市のスポーツボランティア、炊き出し訓練等)を継続かつ活発化させ、地域の期待に応えられる学校づくりに向けた取組を教職員一丸となって推進していきたい。		

イ 学校関係者評価結果等(平成22年度)

学校関係者評価を実施した主な評価項目	家庭学習の充実及び部活動の充実	生徒指導における基本的生活習慣の確立
自己評価結果について	<p>【家庭学習の充実】保護者のアンケート結果に「もっと宿題を出して欲しい」との要望がある。生徒の層に幅があり、学校として努力している様子は十分理解できるが、是非とも各教科で検討し、より個にあった対応を進めていただきたい。</p> <p>【部活動の充実】各部とも素晴らしい成果を収めており、日頃からの先生方の熱心な指導に感謝する。</p>	<p>保護者のアンケート結果では、「生徒指導の対応があまい」との辛口の意見をいただいたようであるが、真摯に捉え、保護者の期待に応えられるよう対応を図って欲しい。</p>
今後の改善方策について	<p>現在行っている、家庭学習時間調査を継続実施し、その結果を分析していく必要がある。</p> <p>部活動の指導については、予算の問題もあるが、先生方以外に地域の専門家の活用を検討してはどうか。</p>	<p>校外での生徒の様子は学校の指標でもあるため、是非とも身だしなみや交通マナーなどの指導を今以上に行って欲しい。</p>
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツボランティアや福祉施設でのボランティアなど、大変積極的に取り組んでおり、みよし市の活性化に貢献し感謝している。 ・地域住民を巻き込んだ「交通安全スクラム作戦」は地域に定着してきており、市民の交通安全意識の高揚につながっている。 ・特に、スポーツ科学科の生徒は、校内・外を問わず、あいさつができて素晴らしい。 ・自転車マナー指導については、さらに指導を加えて欲しい。 	
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<p>構成・・・学校評議員 5名及びPTA会長 1名の合計 6名</p> <p>評価時期・・・3月上旬</p>	

平成23年度の学校評価

平成23年度の 重点目標	① 各学年、分掌の立場から「自分で〇〇〇が出来る生徒を育てる」といった大目標を設定し、その達成に向けた取り組みを行う。 ② 家庭、地域、学校の連携強化を図り、学校スローガンである「地域と共に進化する三好高校」を一層推進する。 ③ 部活動やボランティア活動、体験学習、学校行事などを通じ、「生きる力」に満ちあふれた生徒を育てる。 ④ 生徒が卒業後の人生を自らの手で切り開けるように、先を見据えた進路指導、生徒指導を行う。 ⑤ 環境美化・緑化活動・清掃活動を推進し、安全で安心できる学校環境を整える。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学校行事 (総務部)	P T A活動の活性化による教育活動の充実	P T A総会及びP T A行事の参加率の向上	メールによるP T A会員への一斉連絡システムを充実させて、保護者への連絡を徹底する。
	式典（儀式）の充実	儀式における更なる規律正しい態度の育成	全教員が共通理解のもとに、整列・服装・参加態度はもちろんのこと校歌が大きな声で歌えるようにする。
	校内研修の充実	生徒の実態に即した研修計画	関連する他分掌と連携して実施する。
学習指導 (教務部)	基礎学力の充実と日々の家庭学習確保	学習内容の精選 家庭学習充実のための課題提示 授業心得の遵守	生徒一人一人の能力・適性、興味・関心の掌握 課題等の出題（週末課題を含む） 家庭学習についてのアンケート実施（1学期期末考査前）
	成績不振者の減少	よくわかる授業、興味をもつことができる授業の実践	教材研究 評価規準の研究 研究授業（公開授業）を通しての研修
生徒指導 (生徒指導部)	身だしなみ（特に女子スカート）指導の徹底	「身だしなみチェックリスト」を活用し、自覚させるまで指導する。	本人はもとより、保護者と連携・協力して指導に当たる。
	心の健康の促進	生徒の状況把握と教育相談の充実	教育相談の機会の浸透
	自主自立を基本とした規律ある寮生活	生徒組織を活性化させ、責任を果たす指導の徹底	寮生とのコミュニケーションを円滑に行い、定期的に寮生会議を設ける。
生徒会 部活動 (特別活動部)	部活動の更なる活性化	運動部の大会成績向上への支援体制と文化部の活動の活性化と内容の充実	大会情報提供を校内に広めて活動を刺激するとともに、文化部への支援体制を充実させる努力をする。
	生徒会活動の充実	生徒会行事への積極的な参加と各種委員会の活動活性化	生徒の自主的な活動を啓発する。
健康 安全指導 (保健部)	保健委員会活動の充実	保健委員会活動の組織化と役割分担	保健委員会の組織化を図り、計画的に各種の保健活動に取り組みせることにより、充実した活動内容とする。
	環境美化と施設の整備	清掃活動への取り組みと月例点検の実施と改善	日常の清掃活動への取組と安全点検の結果と改善が結びつく体制を構築する。
	体力の維持・向上	体力テストの参加率の向上	例年と比較し、参加率が上がるように取り組みせるとともに記録向上を目指し運動に対する意欲を高める。
進路指導 (進路指導部)	職業観、進路意識の育成	各学年の進路的行事を充実させる。適切な時期に適切な情報を提供する。	各行事の事前・事後の指導、インターンシップ参加への呼びかけなどを充実させる。2年生への進学情報提供に努める。
	基礎学力・受験学力の育成	補習授業と模擬試験の効果的な活用と自学自習の習慣をつけさせる。	模擬試験後の指導 上位生徒の把握と適切な教材の提供 長期休業中や土曜日の利用
	3年間の進路指導の再構築	進路指導部会での意見交換や総合学習の見直しの中で検討をする	キャリア教育の視点を意識する。

平成23年度の学校評価

図書・情報 (図書情報部)	図書館利用の促進	図書委員会活動の充実	図書当番を徹底し図書委員による図書館活動を目指す。
		図書館行事の充実	行事・広報活動を充実し図書館利用の促進を図る。
	ホームページの更新	更新方法の具体的流れの簡便化、各分掌・学年への働きかけ	本校の情報を定期的に公開することで、教育内容についてより一層の理解が深まるよう努める。見やすいホームページを目指す。個人情報へ留意する。
スポーツ 科学科	スポーツ科学科志願者の確保	自校ホームページの充実と体験入学、中学校訪問、地域別説明会の充実	本校から中学校に発信する手段を多く講じて、スポーツ科学科への理解を得る。
	部活動の充実とより一層の活性化	特別活動部と連携を図り普通科生徒への運動部参加への呼びかけと活動内容の充実	運動部活動への参加率を上げることによって学校生活の充実を図る。
	進路指導部と連携した進路意識の育成	3年間を見通して体系化した進路意識育成システムを構築する。	各種の大学入試制度を研究調査し、スポーツ科学科の特徴・問題点を挙げ、進路希望達成のシステムを構築する。
1年学年会	高校生活への適応	日常のあらゆる機会を利用して、時間やルールを守らせる指導を行う。	集団における個人の言動の影響力や、ルールの重要性を考えさせる。
	基礎学力の定着	授業を重視する。課題や学習時間調査等により、家庭学習を習慣化させる。	目的意識を持って、授業や課題、家庭学習に取り組ませることにより、学力の向上を図る。
	将来への展望	体験学習、進路行事、LT、学年集会、担任面接等を利用して、継続的に進路指導を行う。	資料や情報をもとに視野を広げさせる。自分の興味・関心・適性を生かした進路を考えさせ、目標を持たせる。
	諸活動への積極的参加	学校行事、体験学習、部活動に意欲的に取り組むクラスや学年の雰囲気作りを行う。	高校生活を充実させるとともに、人間として成長させる。
2年学年会	基本的な生活習慣の確立	遅刻、欠席をさせない。家庭での学習習慣をつけさせる。	時間の管理にとどまらず、家庭での生活全般において、望ましい生活習慣を確立させる。
	基礎学力の充実	授業を大切にさせる。家庭での学習を充実させる。	家庭学習時間の確保をさせるべく適切な課題を与える。課題を確実に提出させる。
	学校諸活動への積極的な参加	あらゆる場面で、学校の中核としての学年であることを自覚させる。	学習活動のみにとどまらず、学校行事や部活動へ積極的に参加させ、学校生活を充実したものにさせる。
	進路目標の明確化	体験学習やLTなど、あらゆる場面をとらえて進路目標を具体化させる。	多岐にわたる進路目標を個々に意識化させる。海外修学旅行などの体験的な学習や担任との面談を生徒の進路目標の設定に生かさせる。
3年学年会	明確な目標設定と課題認識	総合的な学習の時間やLTを活用して進路目標の明確化を図り、目標の達成に必要な学力等を具体的に理解させる。	個々の生徒の、特性を生かした進路実現を支援するために、面談を適切に行い、機をとらえて具体的にナビゲートをする。
	学習環境の整備	教室の環境整備にとどまらず、身だしなみ、課題、STテスト、進路別補習講座に向かう姿勢など、あらゆる場面をとらえて指導を行う。	自主的・主体的に学習に取り組む習慣を確立させる。
	最高学年としての自覚	下級生に対する責任を自覚させる。学校行事や部活動等においてリーダーシップを発揮させる。	下級生の目標・模範となる姿を目指す。
	社会人への覚醒	社会人の入り口に立つ者として、あらゆる場面で「大人」としての対応を求める。	言葉遣い・マナーなど信頼される人間としての成長を図る。
学校関係者評価をする主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実及び部活動の充実について ・生徒指導における基本的な生活習慣の確立について 		